



MDP

Sagan Tosu

MATCHDAY PROGRAM

5.3

(金・祝)

進



15:00 KICK OFF
vs 東京ヴェルディ

© TOKYO VERDY

昨季はリーグトップのセーブ率となる76.1%を記録。チームの被シュート数が多かった影響もあるが、そのパフォーマンスで朴一圭はリーグ屈指のGKであることを証明した。それでも、サガン鳥栖の守護神は満足していなかった。「大事なところでチームを勝たせるようなセーブができていなかった」というのがその理由だ。守護神の根底には勝つことへの強い希求心する精神がある。室拓哉GKコーチ、パッレージ・ジルベルトGKダイレクターの指導の下、年齢を重ねてなお成長曲線を描き続けているが、それがチームの勝利、順位に結びついていない以上、満足できるはずもなかった。得点数はリーグ5位タイの数字だったが、チームの最終順位は14位。「自分が止めていれば勝てた試合も必ずあったはず」とベクトルを自分に向け、責任を背負い込んだ。このマインドこそが朴の強さだろう。チームを勝たせるという責任から目を背けずにそれができる存在になるために不断の努力を続けている。

そんな朴だが、今季はその心境に変化が生まれている。「これまでは『自分が何とかする』という気持ちでずっとサッカーをやってきました。ただ、今年は『任せる』ことを意識したい」。そこには川井健太監督の下で3季目を迎え、福田晃斗や長沼洋一のように指揮官と一緒に戦う時間が長い選手が増えたことも影響しているという。「僕が発信しなくてもその選手たちが発信してくれる。僕も信頼している選手たちが何人もいる」。任せられるからこそ、より自分のパフォーマンスに集中する。それこそが自分がこのチームに最も貢献できることだと確信しているからだ。「去年は周りを心配するあまり神経質になってしまってパフォーマンスが落ちてしまったところがありました。僕が止めて失点しなければ負けることはないわけで、もう一回、その気持ちで自分がどっしり守れるような環境を作りたい」。信頼できるチームメイトがいる。朴は自分にできることに集中し、このチームを高みへと押し上げる。

木村情報技術



誰よりも勝利に飢える
守護神はベクトルを常に
自分に向けてる

GK 71

朴一圭
IlGyu PARK